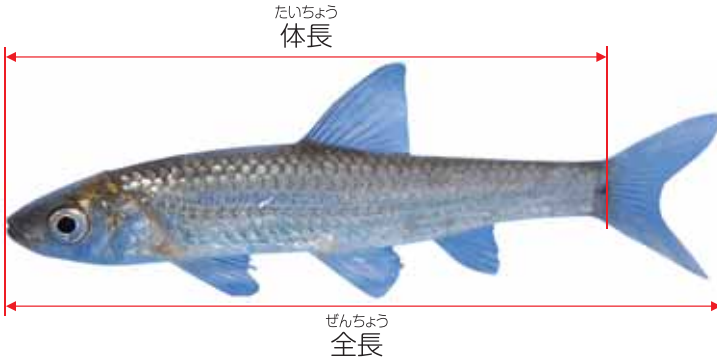


用語解説2

体の大きさの表し方



日本にすむ淡水魚の出身地(発生系統)

シベリア系

シベリアからサハリンを通り、日本列島まで移動してきた魚

例：ウグイ、マルタ、カワヤツメなど

中国大陸系

中国大陸から朝鮮半島を通り、日本列島まで移動してきた魚

例：コイ、ドジョウなど

北太平洋系

北太平洋から国後島などの千島列島を通り、日本列島まで移動してきた魚

例：サケ、ワカサギ、アユなど

インドシナ系

東南アジアから、宮古島などの琉球諸島や種子島などの薩南諸島を通り、日本列島まで移動してきた魚

例：ウナギ、ナマズなど

◆豆知識

シベリア系と北太平洋系の淡水魚を「北方系冷水魚」、中国大陸系とインドシナ系の淡水魚を「南方系温水魚」といいます。

用語解説3

生活域

■ 一次的淡水魚



真水だけにすむ淡水魚のことです。
コイ、ドジョウ、ナマズ、ギバチ、メダカ、カムルチー、オオクチバスなど遊水地に生息している魚のほとんどは一次的淡水魚です。

■ 二次的淡水魚



海水と真水のどちらにもすむことのできる魚のことで、さらに3つのタイプに分けられます。
ウナギなど川から海に帰って産卵する魚を「降海型(こうかいがた)」、サケやマルタなど海から川に上って産卵する魚を「遡河型(そかがた)、アユやワカサギなど河の中流や下流で孵化したのち海で生活し、成長してから川を上って産卵する魚を「両側回遊型(りょうそくかいゆうがた)」と呼びます。

■ 周辺の淡水魚



もともと海水にすむ魚ですが、一時的に川など淡水でも生活をする魚です。
ボラ、スズキといった出世魚やマハゼ、スミウキゴリ、カワアナゴなどです。

魚のおもしろ情報

◆ こんいんしよく 婚姻色

繁殖の時期をむかえて、体の一部が赤やピンク、オレンジなどに変わる色のことです。

写真はオイカワの雄の婚姻色で、赤や緑色をおびます。



◆ しゅっせ うお 出世魚

幼魚→成魚→老成魚と生長とともに名前が変化する種のことです。

例えば、ボラやスズキがあげられます。

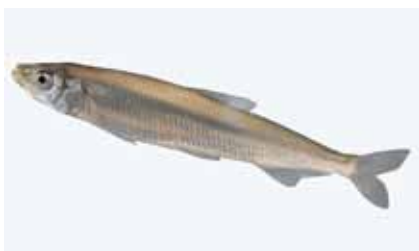
ハク→オボコ→スバシリ→イナ
→ボラ→トド
マメツパ→セイゴ→フッコ→スズキ

写真はスズキです。3歳以上で60cmをこえる場合の呼び名です。



ワカサギ

キュウリオ科



【分 布】 北海道から本州

【時 期】 一年中

【全 長】 8～15cm

【食べ物】 動物プランクトンなど

【豆知識】 公魚。1～5月の繁殖期に、群れて川をのぼって、水草などに産卵します。孵化した稚魚は1年で成熟し、産卵すると死を迎

えます。北太平洋系の冷水魚でアユ等と同じく氷河期に南下して、間氷期(氷河期のなかの温暖期)に北上する時、そのまま現地に留まった二次的淡水魚で、日本列島の太平洋岸における天然分布域は茨城県以北で、利根川が南限河川です。本来は沿岸から河口汽水域の生息魚ですが、塩分適応力が強いので、湖沼に広く移入され、山地湖沼での代表的釣り魚となっています。

【渡良瀬遊水地での生息状況】 遊水地では谷中湖や池内水路で見られる在来種です。

コラム 水張りがもたらした魚、ワカサギ

谷中湖では秋に満杯にした湖水を春に入れ替えますが、この時出現する魚がいます。例年、早春の谷中湖では少量のワカサギがとれていましたが、平成13年には利根川下流から遡上してきたワカサギが湖内に多量現れました。ワカサギは秋には7～9cmに成長して、翌春には湖内での天然産卵も確認されました。そして、平成16年以降は、漁業協同組合による種苗放流も順調に進み、今では遊水地における水産上の重要魚種となっています。

魚の紹介

在
来
種

アユ

キュウリオ科



イカリムシの寄生した谷中湖のアユ(上) 渡良瀬川のアユ(下)

【分 布】 北海道から九州

【時 期】 春～夏

【全 長】 25～30cm(最大)

【食べ物】 藻類(成魚)、水生昆虫(幼魚)

【豆知識】 鮎。唇にあるやすり状の歯列で川底の藻類をこそぎとって食べるため、なわばりを持ちます。秋に川でふ化し、海で育ち、春に川に帰ります。そして秋に卵を産んで、その一生が終わります。

【渡良瀬遊水地での生息状況】 渡良瀬川や巴波川、思川等で遡上^{そじょう}期(春)と産卵期(秋)に見られる在来種。アユは本来川にすむ魚ですが、平成10年～15年頃の谷中湖で多数生息し、このアユに釣り人が殺到して「初夏の風物詩」と騒がれました。これは谷中湖の水更新(水の入れかえ)と深い関係がありました。



ヒウオ(稚魚)

コラム コンクリート張りの水簍^{みずかめ}、谷中湖に湧き出したアユ

谷中湖は首都圏の水不足と台風時の洪水対策のために造られたものです。このため、夏が近づくと秋の河川増水に備えて貯水池の水を抜き、10月になると再び満水に戻します。アユの仔魚は秋に河川の中・下流域で孵化して海に降り、動物プランクトンを食べ4～6cmに成長します。そして、春になると河川に遡上して、初夏には底石に着いた藻だけを食べ、ぐんぐん成長して体長が20～25cm程となる秋に産卵して一生を終えます。

アユの仔魚が海に降りる頃は谷中湖の水張り期でもあり、両者が一致した年には多数の仔魚が谷中湖に吸い込まれる事になりました。この仔魚は谷中湖の動物プランクトンを食べ、2月には5cm程、5月には8～9cmと海に降ったアユと大差なく成長しました。しかし、食べ物を全面的に藻に切り替える初夏になると、成長が停止してしまいます。谷中湖にはアユの食べる付着藻が無いのです。谷中湖の夏季表水温は27～29℃にもなり、北方起源のアユにとり生きる限界の水温です。その上、衰弱したアユはイカリムシの寄生により著しくやせ衰え、秋には姿を消しました。

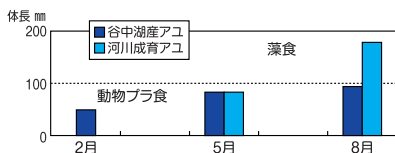


図 谷中湖と河川におけるアユの成長 開根(2002,2006)より
稚魚期(2～4月)のアユは動物プランクトン食だが、初夏以降は付着藻食になる